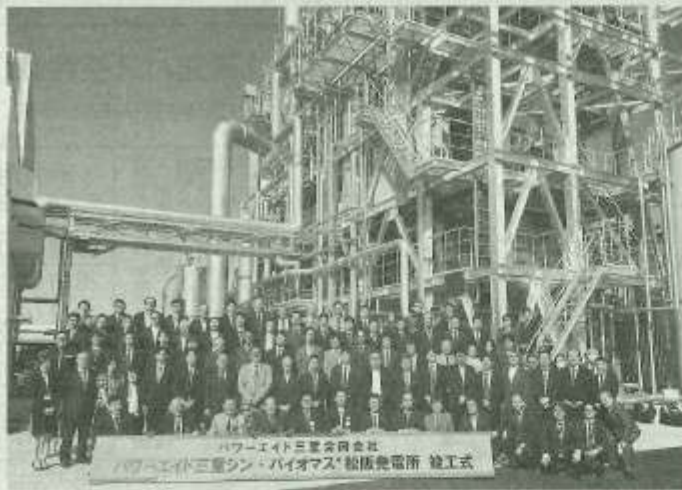


元気で躍進 地域経済

全国初、完全ノンフィット

パワーエイド
三重 シン・バイオマス発電所始動



パワーエイド三重合同会社
パワーエイド三重シン・バイオマス 松阪発電所 竣工式

パワーエイド三重合同 野町、西川弘純職務執行
会社(本社)松阪市小片 者が松阪市木の郷町の

ウッドレテ松阪に建設し
たパワーエイド三重シン
・バイオマス(松阪)
発電所の竣工(しゅん
こう)式が24日に開催
され、約100人が参
列した。同社は小片野
町のバイオマス発電
所・バイオマスパワ
ーテクノロジーズ(株)(B
PT)と、多気郡多気
町西山に三重きのこセ
ンターを持つホクト(株)
(本社)長野市)など
6社で構成。同センタ
ーから出る使用済み培
地(廃菌床)を主燃料
として、発電する。
竣工式の後、発電する
ボイラープラントを背
に記念写真に納まる参
列者ら。木の郷町で

とした日本初の完全Non-Fit型発電所だ。
Non-FitとはF
IT(固定価格買取制度)
を利用しない再生可能エ
ネルギーのこと。シン・
バイオマス(松阪)発電所
は、廃菌床に、中部圏一
円で排出されるリサイク
ル木材チップとRPF
(プラスチック系廃棄物
と古紙を混ぜて固めた
物)を混ぜた燃料を燃や
し、蒸気タービンを回し
て発電。つくった電気は
ホクトが買い取る。
総事業費は約26億円
で、2021(令和3)
7月に同社を設立、一昨
年7月に着工し、今年3
月16日に運転を始めた。
発電量は1時間当たり1
990kWh。

この日は神事に続いて、
元環境大臣の原田義
昭・元衆議院議員、竹上
真人市長、ウッドレテ松
阪協同組合理事長の田中
善彦・松阪商工会議所会

頭、西元一樹・榎みずほ
銀行大阪法人第一副部
長、西山剛史・榎タクマ
副社長執行役員が代わる
代わる祝辞。原田さんは
「少し前に環境大臣をし
ていた立場からすると心
から感謝と御礼を。きの
こセンターから出る菌
床を有効利用する完全N
ON-Fitのクリーン
電力」とたたえた。
BPTの北角強代表取締
役社長CEO・CEO
(55)と、西川職務執行
者(39)BPT専務取締
役CEO・CMOが
あいさつした。
北角さんは、ボイラー
メーカーのタクマ(本社
兵庫區尼崎市)からB
PTの西川幸成代表取締
役社長CEO(59)が打
診を受けてプロジェクト
が始動した経緯を振り返
り、西川職務執行者は再
生可能エネルギーの発電
所は国民に再エネ賦課金
の負担をかける。次のス
テップとして完全NON
-Fitという形で、国
民負担に依存しない発電
所の運営、持続可能なエ
ネルギーをつくっていく
必要がある。その第一歩
と力を込めた。

完全NON-FIT型発電所が稼働

燃料は廃菌床、リサイクル木材チップ、RPF

バイオマスパワーテクノロジーズ

バイオマスパワーテクノロジーズ（以下、バイオマスP）は、クノロジーズ（BP T、三重県松阪市、北角強社長）グループのパワーエイド三重合同会社（PAM、同、代表社員）が建設、運営する完全NON-FIT型のシン・バイオマス松阪発電所（同、出力規模1990kW）が商業運転を開始した。

バイオマスPは、固形燃料を使用しており、4月24日には関係者らが参加して竣工式を実施した。

バイオマスPは、両社と林業の玉木材（奈良県五條市）、再生可能エネルギーコンサルティングのインテグリティエナジー（大阪府枚方市）で構成され、グループ従業員は30人。2018年に、BPTが松阪市内に一般木材や建築廃材、パーク（樹皮）を燃料とする小規模分散型発電所（同1990kW）を設置。北角社長は、隣地で未利用材や一般木材を燃料とする三重エネウッド（松阪市）松阪木質バイオマス発電所（同5880kW）の立ち上げ（14年）にもかかわらず、両発電所の稼働で山から出る森林資源の全量を活用できるようになったという。

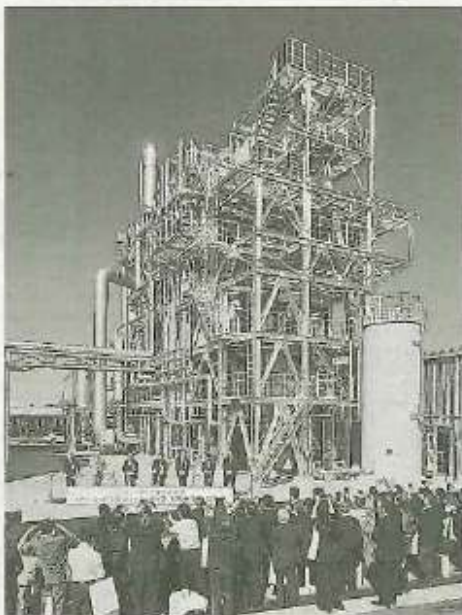
PAM（総事業費約26億円）は同社グループのFITに頼らない

次世代型発電事業の第1弾で、脱FIT＝国民負担なしで脱炭素の取り組みを加速させる。ボイラーはタクマ製で、ホクト（長野市）の三重きのこセンター（三重県多気町）の廃菌床ほかを年間約2万7000ト使用し、同1647万kWの電力を生産。生産した電力は、同センターに供給する。

竣工式で北角BPT社長は「私たちはこれから発電ベンチャー、林業ベンチャーとしてのマイノリティを持続していく」と語った。また、西川浩純BPT専務は「原材料集荷に制約のない完全NON-FIT型発電所で持続可能なエネルギーを作り、地域雇用にも貢献していく。今後はPAMを安定稼働させ、地区外でも完全NON-FIT型発電所を複数展開したい」と話している。

燃料は廃菌床（使用済培地）、リサイクル木材チップ、RPF（産業廃棄物が原料の

BPTが松阪市内に一般木材や建築廃材、パーク（樹皮）を燃料とする小規模分散型発電



4月24日に竣工式を開いた

完全NON-FIT型の松阪発電所を竣工

パワーエイド
三重合同会社
廃菌床やRPFなど年2万8000t活用



北角強社長



西川弘純専務

パワーエイド三重合同会社(三重県松阪市、職務執行者・西川弘純氏)は4月24日、木材コンビナートのウッドピア松阪(同市)において「パワーエイド三重シン・バイオマス®松阪発電所」の竣工式を開いた。来賓として

元環境大臣の原田義昭氏や竹上真人松阪市長の他、計画・建設に携わった関係者ら約120人が完成を祝った。同発電所は、三重県多気町にあるホクトの三重きのこセンターから排出される廃菌床をはじめとする、主に中

部圏から排出される木材・製造業生産副産物の他、RPF等を混焼し発電を行う施設だ。燃料の総量は年間約2万8000tで、内訳は廃菌床・木材チップ等が85%、RPFが15%とした。発電出力は1990^{キロワット}。タクマ製のトラベリシグストーカ式ボイラーを採用した。総事業費は約26億円に上る。

BPT(バイオマスパワーテクノロジー)所(出力5800^{キロワット})



松阪発電所の竣工に多くの関係者らが集った

ズグループは、三重エネウッド(同市、西川幸成社長)が2014年に日本で3番目に稼働したFIT対応発電所(出力5800^{キロワット})

ス®松阪発電所では、

に携わった知見を生かし、18年に出力1990^{キロワット}の小規模分散型・FIT対応の第2号機を立ち上げ、運転を開始。三重エネウッドでは使用しづらいパークなどの処

ホクトから供給される廃菌床といった製造業の生産活動に伴う副産物を生かし、グリーン電力として循環させる「インターナルカーボンサーキュレーションシステム」を構築する完全NON-FIT型事業での発電に挑む。竣工式では、BPTの北角強社長と西川弘純専務が来賓・関係者に対し謝辞を述べ、「FIT制度に頼らず、国民負担に依存しない持続可能なエネルギーをつくる第一歩とし、再エネ拡大に向けてまい進していきたい」と語った。